
オレと友人Aとプリン

珠虹

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

オレと友人Aとプリン

【Nコード】

N9710A

【作者名】

珠虹

【あらすじ】

オレと友人Aの日常編。プリンで争う二人のお話。

視線が交錯し、火花が飛び散る。
対立する、俺と友人A。

二人の間には、プリンが1つ。

そう、これは戦い。

血も涙も友情も、そこには存在しない。

プリン争奪ジャンケン合戦。

「ジャン、ケン、ポン」

戦いの火蓋が切って落とされた。

激しく繰り出される攻撃。互いのハサミが重なり弾きあう。

「アイ、コーデ、シヨ」

次の瞬間、オレのピストルを友人のマジックハンドが包み込んだ。

「やりー」

友人がプリンを掲げる。

「悪いねー」

友人がプリンを口に含みながら言う。
随分美味そうに食べる。

プリンのごとくアマイ奴だ。

「いや、別にいいんだ。もう一つあるし」

オレは冷蔵庫を開ける。

「なんだよー、ジャンケンした意味ないじゃん」

友人はスプーンを口に加えたままで喋った。

スプーンの柄が上下に揺れる。

「ああそうだな。……じゃあオレも食べるかな。ビッグでクリーム
いっぱいのを」

そして冷蔵庫の奥から取り出す。

ワンランク上の高級プリン。その差¥100。

「な！？卑怯者っ！」

驚愕の声をあげる友人。口にくわえていたスプーンは、無残な音を
立てて床に不時着した。

「気付かない奴が悪い。時代は情報戦だ」

「くそ〜」

既に普通のプリンを食べ始めてしまった友人には、このプリンを食

べれない。

二個も食べることは許されない。
この勝負、オレの勝ち。

「ふはははは」

勝利のプリンは格段上手い。

「うわ〜やられた〜」

悔しそうな友人の顔を見るとより一層だ。

〈 f i n 〉

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9710a/>

オレと友人Aとプリン

2010年12月31日04時26分発行